



JAPAN COAST GUARD

Mobile Cooperation Team

SAPPHIRE26

マーシャル諸島海上保安機関職員等に対する能力向上支援 (活動概要)

～日米マーシャルの関係強化、FOIP 実現に向けた取組みを推進～

- 1 日程
令和8年4月26日(日)～5月9日(土)
- 2 場所
マーシャル諸島(マジュロ)
- 3 派遣職員
海上保安庁 MCT (Mobile Cooperation Team) 4名
- 4 研修参加者
マーシャル諸島共和国海上保安機関 (Sea Patrol) 12名
マジュロ警察・税関 2名
パラオ共和国海上保安機関 (オブザーバー参加) 2名

5 活動概要

海上保安庁は笹川平和財団の枠組みを通じて、令和5年度からマーシャル諸島海上保安機関 (Sea Patrol) に対して救難分野及び国際法分野等の能力向上支援を実施しています。

今回は米国沿岸警備隊モバイルトレーニングチーム (USCG MTT) との連携や、パラオ海上保安機関からのオブザーバー参加など、多国間連携を多く含むものとなりました。

内容としては、国際法講義を行うとともに、基本結索や CPR・AED 取り扱い訓練といった救難分野の基礎訓練に加え、応用訓練として、国際法ワークショップや洋上における海難救助想定訓練を実施し、想定訓練では豪州政府関係者の視察を受けました。

なお、この度の派遣においては、上記に加え、USCG MTT が実施したマーシャル Sea Patrol に対する法執行に係る能力向上支援において、USCG MTT と連携合同実施という形で、MCT が制圧術訓練指導を担当しました。

また、訓練の他、現地ではマーシャル政府高官をはじめ、在マーシャル米国大使館や、同地日本国大使への表敬訪問を行い、海上保安庁及び MCT の取り組みについて説明しました。

さらにマーシャル Sea Patrol 及び豪州政府関係者と3カ国合同で、今後の連携・調整を見据えた能力向上支援にかかる意見交換を実施しました。

今回の Sea Patrol に対する能力向上支援は、日米海上保安両機関における共同の取組「SAPPHIRE (サファイア)」の一環としても位置付けられ、USCG の支援プログラムと連携した支援を実施しております。

海上保安庁では、引き続き「自由で開かれたインド太平洋 (FOIP)」の実現に向け、各国の海上保安機関との連携・協力関係を強化していくとともに、インド太平洋沿岸国への能力向上支援を推進してまいります。

※日米両機関における共同の取組みを「SAPPHIRE (サファイア)」と呼称し、2026 年に実施する取組みを「SAPPHIRE26」と表記しています。

- ・ SAPPHIRE: Solid Alliance for Peace and Prosperity with Humanity and Integrity on the Rule-of-law based Engagement
- ・ 日本語訳: 法の支配の取組における誠実と仁愛に基づいた平和と繁栄のための強固な連携



海上保安庁 MCT 主体の制圧訓練指導
(USCG MTT との連携合同実施)



USCG MTT 主導立入検査実習での
海上保安庁 MCT からのコメント出し



日米連携 (指導官交流)



基本結索



洋上海難救助想定訓練



海上保安庁、マーシャル Sea Patrol 及び
豪州政府関係者による 3 か国合同意見交換



国際法講義



国際法・ワークショップ